

液晶...下げ止まったTFT市況

液晶の主力製品であるPC向け15インチTFT(以下、TFT)の市況が下げ止まった。2003年2月の同価格は21千円と前月比1千円の微増に転じ、2002年後半から続いていた下落に歯止めが掛かった(図)。

これは、主用途であるPC液晶モニター(以下、液晶モニター)向けの需給逼迫が大きい。近年、PCモニター市場では、従来主流であったブラウン管モニターから「省スペース・低消費電力」の液晶モニターへの代替が進展しており、2002年後半のTFT価格の下落を背景に、より低価格化が進んだ液晶モニターへの需要シフトが加速している。加えて、供給面で、昨秋に稼働を開始したサムスン電子の最新鋭ラインの立ち上がりが遅れていることも相俟って、TFT需給がタイト化しているのである。

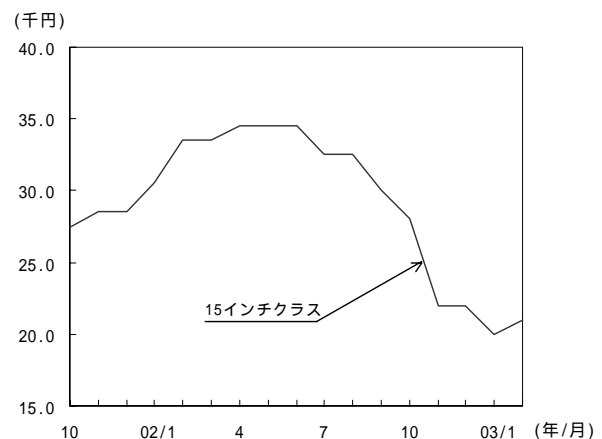
ただし、今後は、2003年半ば～後半にかけて再び下落基調に転じる公算が大きい。TFT需要の拡大は続こうが、それ以上に供給圧力が高まるとみられるからだ。たしかに、需要面では、液晶モニター向けはブラウン管モニターからの代替進展を受けて一段と増勢を強めようし、残るノートPC向けも2003年以降回復基調に入ると予想される。さらに、新たな用途として液晶TV向けが今後本格的な離陸期を迎えるとみられる。しかしながら、供給面では、こうした需要増を見込んで、韓国・台湾勢を中心に最新鋭ラインの新增設計画が目白押しとなっており、この結果、業界全体の供給能力は、向こう1年間で需要の伸び(前年

比約25～30%増)を上回る同約35～40%増となり、需給の緩和が避けられそうにない。つれて、TFT価格も年半ば～後半には再び下落基調に転じる可能性が高い。

このため、足許で市況の底打ちを受けて一服している参入各社も、早晚再び収益環境の悪化に見舞われる虞が強い。とりわけ価格競争力で韓台勢に見劣りするわが国メーカーへのダメージは大きいものとなろう。韓台勢が最新鋭ラインへの大型投資によりスケールメリットを追求する一方、資金力で劣るわが国各社は、投資への熱意が薄く(現在最新鋭ラインへの投資を決定しているのは1社のみ)、韓台勢との格差は今後一段と広がる公算が大きいからだ。かかる状況下、すでにわが国各社の間では、PC向けTFTを縮小・撤退して携帯電話向けを中心とした中小型分野などに注力する動きが相次いでおり、今後こうした動きに一段と拍車が掛かりそうだ。

(3.11 小野田 陽介)

図：TFTの価格推移



(注)液晶パネル価格の大口需要家渡しベースの平均価格をみたもの。

(資料)半導体産業新聞